

大型放射光施設（SPring-8）及びX線自由電子レーザー施設（SACLA） 中間評価（第3回）における議論の概要（案）

1. 今後の重点的な課題及び推進方策について（有識者からのヒアリング）

- 放射光施設において放射光以外の分析装置や周辺設備をどのように整備していくかについて、我が国の放射光施設全体の役割分担を踏まえた議論が必要ではないか。
- SPring-8、SACLA における高度な施設運営、利用者支援を行うために、施設を支える人材のモチベーションやアクティビティの維持・向上を目的とした人材育成の取組を検討すべきではないか。
- 産業利用のニーズは業種や企業によって多様であるが、FSBL は産学コンソーシアムによる放射光利用が機能している好例と考えられる。今後も多様な産学連携促進の取組を実施すべきではないか。
- 利用者本位の施設運営に向けた取組として、我が国の放射光施設における放射線管理の在り方について、今後検討が必要ではないか。

2. 今後の重点的な課題及び推進方策について（SPring-8、SACLA からのヒアリング）

- SPring-8、SACLA の財政的な経営基盤の強化や利用者本位の施設運営に係る取組として、ユーザーのニーズに即した柔軟な利用料金制度の検討が必要ではないか。例えば、付加的な利用料金を負担することにより課題選定を経ずに BL を利用できる仕組み（＝入口課金制度）を検討してはどうか。
- SPring-8 の BL の固定化を防止し、有効利用するための取組として、施設側による専用 BL の管理・支援の促進を検討すべきではないか。例えば、施設側が専用 BL の基幹部分・共通部分を整備・管理し、専用施設設置者は BL を保有（ストック）するのではなく、利用料金を負担する（フロー）ことで、ビームタイムを確保できる仕組みを検討してはどうか。また、専用 BL の設置や改廃等に係る実効性のある評価が行われる仕組みを検討すべきではないか。
- SPring-8 の共用・専用・理研 BL を含めた BL の改廃等に際して、各 BL の位置づけ明確化することが重要ではないか。例えば、最先端の研究成果を目指す BL、稼働率（ハイスループット）を上げるための BL、といった整理が考えられるのではないか。また、BL のエンドステーションを戦略的に整備することにより、施設の総運転時間における BL の利用効率を高めるべきではないか。